

3) 発電利用

久慈川流域には5つの発電所があるが、そのいずれもが里川流域にあり、明治～大正年間に建設されている。使用水量は全体で10m³/s、最大総出力3,560kw/hの電力の供給が可能で、現在でも稼働している。このうち最も古い中里発電所は、久原房之助（煙害防止のため、156mの東洋一の煙突を作った日立鉾山の開発者）によって日立鉾山の電力供給のために建設された。里川右岸の河岸段丘に2,830mの導水路（開渠）を開き、落差36.06mの水路式水力発電所である。

表 4-6 里川流域水力発電設備一覧

発電所名	使用開始	認可出力	発電形式	落差	使用水量	建屋	水車形式	摘要
中里	明治41年12月31日	700kw	水路式	36.06m	3.06(m ³ /s)	木造	横軸フランシス	県内最古の発電所
賀美*	大正8年2月7日	510kw	水路式	33.33m	2.09(m ³ /s)	木造	横軸フランシス	無人
里川	大正12年6月9日	700kw	水路式	35.39m	2.50(m ³ /s)	鉄筋コンクリート	横軸フランシス	無人
小里川*	大正15年2月27日	1000kw	水路式	102.31m	1.391(m ³ /s)	鉄筋コンクリート	横軸フランシス	無人
徳田*	大正15年10月1日	650kw	水路式	106.15m	0.78(m ³ /s)	木造	横軸フランシス	無人

*賀美、小里川、徳田発電所は平成16年11月8日有形文化財に登録された。）

(資料提供：東京発電株式会社)



図 4-4 里川流域における発電所

旧町屋変電所（登録有形文化財） 所在地：常陸太田市西河内下町 1382-1

旧町屋変電所は、明治 42 年（1909）に日立鉱山によって建設された町屋発電所の変電施設として建設された。町屋発電所は前島平らによって設立された茨城電気株式会社が明治 44 年に譲り受け、同年 10 月 28 日に太田町に電気を灯し、町屋の人々は「電気見たけりゃ町屋へ行け」と誇りにしていた。

町屋発電所は、現在地より南東へ約 50m の里川沿いにあり、里川からの水路を利用した 300kw/h の発電機が設置されていた。旧町屋変電所は、町屋発電所と上流の中里発電所からの電力を、南側軒下のフランス製とみられる三相の^{がいし}碍子から取り入れ、25,000 ボルトに変電して各地に送電していた。

昭和 31 年まで変電所として機能した後は、地域の集会所として利用された。現在は使用されていない。

平成 11 年 8 月 23 日に、登録有形文化財に指定された。

（常陸太田市教育委員会、「常陸太田の文化財」より）



旧町屋変電所(常陸太田市)

